茨木市立　山手台小学校　茨木っ子グローイングアップ計画

令和元年１０月作成

1　３年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	①３校の取り組みや実態を把握する ②様々な分掌で定期的な連携の場をつくる	① いずれかの分掌でブロック会を行う。（生徒会・児童会か外国語） ② 管理職や事務職員を含んだ連携会議を開催する。 ③ 北陵ブロックの子どもの実態を分析する。	① 北陵ブロック授業スタンダード案を考える（研究授業等で） ② １分掌以上で定期的なブロック会を行う。 ③ 小中で子どもが連携している行事を行う。（続けて取り組めるもの）	① 連携が必要な分掌を精査し、定期的な連携ができている。 ② 北陵ブロック授業スタンダード案を実践した研究授業を行う。
確かな学力の育成	自ら考え、学び合う学習を通して確かな学力の定着を図る。	研究授業　教科（算数）・人権 研修会の実施 山手台プランの実施及び検証 朝学習　（モジュール学習） 家庭学習の手引きの検討 あゆみ　評価項目の検討 学習・生活アップ週間の実施 学校自己診断（保護者）の実施	研究授業　教科・人権 研修会の実施 山手台プランの実施及び検証 朝学習　（モジュール学習） 家庭学習の手引きの検討 学習・生活アップ週間の実施 学校自己診断(児童)の実施 グローイングアップ計画の検証	研究授業　教科・人権 研修会の実施 山手台プランの実施及び検証 朝学習　（モジュール学習） 家庭学習の手引きの検討 学習・生活アップ週間の実施 学校自己診断（教師）の実施 グローイングアップ計画の検証
豊かな人間性を育む	一人ひとりの命と人権を大切にし、多様な個性・生き方を尊重し合える児童の育成。	道徳教育全体計画別様の作成と全教員の共通理解 特別の教科道徳の授業研究 規範意識を高める取組みの実施 家庭・地域への啓発 全国学力・学習状況調査（質問紙）の検証	道徳教育全体計画に基づく実践、別様の検証 特別の教科道徳の授業研究 規範意識を高める取組みの実施 家庭・地域への啓発 全国学力・学習状況調査（質問紙）の検証	道徳教育全体計画に基づく実践、別様の検証 特別の教科道徳の授業研究 規範意識を高める取組みの実施 家庭・地域への啓発 全国学力・学習状況調査（質問紙）の検証
健康・体力の増進	運動に親しむとともに食をはじめ規則正しい生活を実践し、健康・体力の保持増進を図る。	スポーツテスト全学年実施及び検証 体育職員研修の実施 ・ボール運動 ・水泳指導 なわとび週間 ドッジボール週間 学習・生活アップ週間 食育・保健指導の充実 全国学力・学習状況調査（質問紙）の検証	スポーツテスト全学年実施及び検証 体育職員研修の実施 ・陸上運動 ・器械運動 なわとび週間 学習・生活アップ習慣 食育・保健指導の充実 全国学力・学習状況調査（質問紙）の検証	スポーツテスト全学年実施及び検証 体育職員研修の実施 ・表現運動 ・体つくり運動 なわとび週間 学習・生活アップ習慣 食育・保健指導の充実 全国学力・学習状況調査（質問紙）の検証
支援教育の充実				

2 今年度の結果と取組みについて

（1）全国学力・学習状況調査

○●国語●○

（領域ごと）

① **話すこと･聞くこと**	課題が残る結果であった。
② **書くこと**	概ね良好な結果であった。
③ **読むこと**	概ね良好な結果であった。
④ **言語事項**	課題が残る結果であった。

（問題形式）

① **選択式**	概ね良好な結果であった。
② **短答式**	課題が残る結果であった。
③ **記述式**	やや課題が残る結果であった。

（無解答率） やや課題が残る結果であった。

（その他）
・問題番号 2-(1)「問題文を読み取り、適切な答えを選択する」問題の正答率が最も高かった。
・問題番号１四(2)「文と文との意味のつながりを考え、接続語を使って内容を分ける」問題の正答率が最も低かった。
・問題番号３三「話し手の意図をとらえ、自分の考えを書く」という記述式問題の無解答率が最も高かった。

分析
・全体的に「やや課題の残る結果」となった。特に「言語事項」に関する問題の正答率が低かった。単純な漢字の書き取りはではなく、同音異義語の知識と文脈を読み取る力を同時に問われた問題の正答率が低かった。漢字ドリルを使い、新出漢字を覚える、といった勉強法から、文章を読み取る中で、同音異義語も含め、総合的に漢字を学習していくといった勉強法への変換が必要になってくる。また、１四(2)、問題文を接続詞「そこで」を使って二つに分ける問題の正答率も低かった。この問題は相手に伝わりやすくする工夫と文章表記が同時に問われている問題であり、話し合い活動を取り入れた授業の在り方等見直す契機になる。
・本校では昨年度より研究教科を国語に設定し、研究している。基礎的な力の確立だけでなく、複合的な問題にも対応できるようにしていきたい。発問を中心にした授業形態から、ペア活動や話し合い活動の言語活動を今以上に取り入れ、「表現力」「読解力」などの力をつける授業づくりを目指していく。

○●算数●○

（領域ごと）

① **数と計算**　　概ね良好な結果であった。

② **量と測定**　　概ね良好な結果であった。

③ **図形**　　概ね良好な結果であった。

④ **数量関係**　　概ね良好な結果であった。

（問題形式）

① **選択式**　　概ね良好な結果であった。

② **短答式**　　概ね良好な結果であった。

③ **記述式**　　概ね良好な結果であった。

（無解答率）　　概ね良好な結果であった。

（その他）
・問題番号１(1)「長方形を直線で切ったものの中から台形を選ぶ」問題の正答率が最も高かった。これだけでなく、図形に関する問題の正答率は総じて高かった。
・問題番号３(2)「減法の計算法をもとに除法の性質を記述する」問題の正答率が最も低かった。
・問題番号３(2)の問題の無解答率が最も高いが、記述式の問題全般の無解答率が高いわけではない。

分析
・全体的に「概ね良好な結果」であった。
・特に図形領域の正答率が高かった。授業にICTを取り入れ、視覚化を進めてきた成果だと考えることができる。また、身近な問題に算数的な発想を取り入れた問題の正答率も高かった。山手台小学校の子どもたちは柔軟な発想ができると言えるのではないか。
・ただ、グラフを読み取り、比較する問題や算数的な思考を記述する問題の正答率が低かった。グラフの読み取りができていないわけではない。比較したり算数的な思考をまとめたりといった、自分の考えをまとめる活動を苦手とする児童が多い。算数的な考えを教室で交流する機会を多く持つことがこれから必要になる。
・新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」を算数の授業づくりにも取り入れていく。図形の定義や四則計算といった基礎的な力の定着も大切にしながら、「自ら学び取り自ら使う」学習への変換をさらにすすめていく。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析
・国語は例年に比べ正答率が低下した。算数の正答率については例年並みであった。
・算数については、今までも問題解決型学習に取り組み、研究を重ねてきたので、基礎的な力については成果が上がっていると考える。
・国語については、言語事項の底上げに取り組み、「視覚化、協働化、構造化」に基づいた授業改善を行っていく。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析
・国語：例年に比べ、学力高位層の児童が大幅に減少している。低位層の児童は微増状態となっている。
・算数：例年に比べ、学力高位層、低位層児童とも微増状態である。
＊両教科とも「少し苦手」な層が増えている。低位層の底上げ、高位層の引き上げも含め、全体的なレベルアップが必要である。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み
　授業づくり
・「自分の考えを　多様な方法で表現し　交流しあえる子ども」のテーマにそって各学年が研究授業に取り組み、授業力の向上を図る。
・授業の中で、交流を通し児童どうしのつながり力の向上を図る。
・問題解決学習の推進。
・授業の視覚化、構造化、協働化の定着
・効果的なＩＣＴ機器の活用、支援教育コーディネーターと学習サポーターとの連携、
・習熟度別指導や個別指導など個に応じたきめ細かな指導
・山手台スタンダード、１００点筆箱、学習のルールの定着
・校内研修会の実施

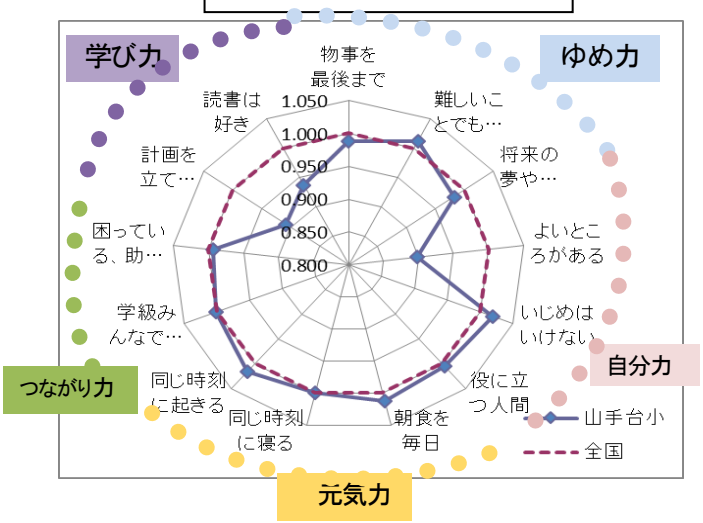
基礎的な学力の育成
・朝学習の充実・・・なかよし学びタイム・外国語モジュール学習
・学習サポーターと連携し、学力の向上を図る。
・朝の読書の実施、読書カードによる読書活動の記録化
　図書館支援員と連携し、読み聞かせなどにより意欲的に読書に取り組めるようにする。

家庭との連携
・学習・生活アップ週間、家庭学習の手引き
・家庭学習、自主学習の定着を図る。
・音読カードや九九カードの取り組みにおいて家庭との連携をはかる。

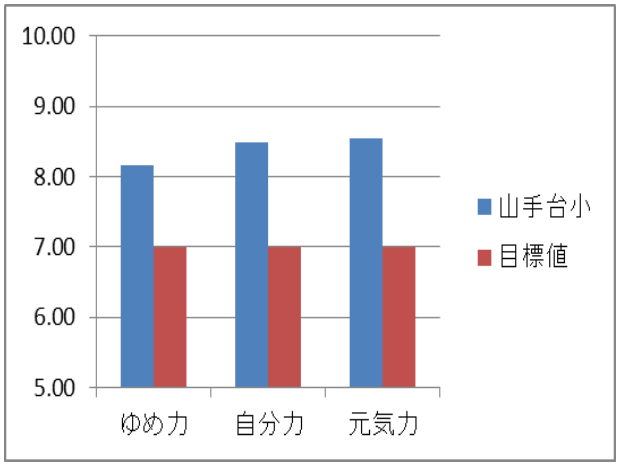
小中連携の強化
・小中合同研修
・北陵中学校区の研究授業の実施
・交流会の実施
・経験の浅い教職員の相互研修

○●子どもたちに育みたい力●○

５つの力　全国平均との比較



５つの力　目標値との比較



今年度は質問し項目が変更になったため、５つの力をこれまでどおり産出することができませんでした。そのため、全国平均との比較（レーダーチャート）は１３項目、目標値との比較（棒グラフ）は３項目とも実施した「ゆめ力」「自分力」「元気力」のみとなっています。

分析

・ゆめ力：「将来の夢や目標を持っている」子どもたちについては８割以上が肯定的な回答をしている。毎日の学校生活をいかに将来につなげるか、といった視点が必要になる。
・自分力：「自分にはよいところがある」に肯定的な回答をした児童は約７割である。自己肯定感や互いを認め合える意識を高める取り組みをこれからも充実させていく。
・つながり力：「学級みんなで協力できる」には９割近い児童が、「困っている友達を助ける」には９割を超える児童が肯定的な回答をしている。これからも仲間づくりを大切にした学級経営を心掛けていく。
・学び力：「計画を立てて勉強をしている」児童は７割に満たない。全国平均を下回る結果となっており、３割を超える「計画的に勉強をしていない」児童に対しての働きかけが急務であると考える。また、８割を超える児童が「読書が好き」と肯定的な回答をしているが、積極的な児童は２割に満たない。
・元気力：ほぼ全員の児童が「毎朝朝食を食べ」、９割を超える児童が「毎日同じ時間に寝起きしている」と回答している。家庭の教育力は高いと考えられる。

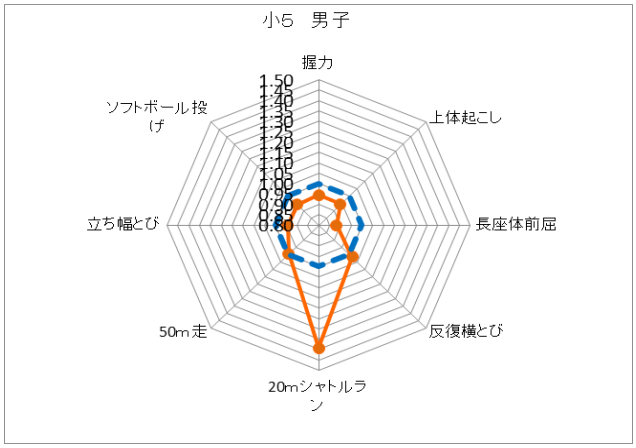
取組み

<u>ゆめ力</u>
学年に応じたキャリア教育の推進・５年生への出発式の実施
ゲストティーチャーとの出会いを通して、仕事や生き方を学ぶ
<u>自分力</u>
規範意識を身につける。人を思いやる気持ち、人権感覚を身につける。
自尊感情を高める。
<u>つながり力</u>
朝学習（なかよし学びタイム）
育む会（青健協）との連携、親子映画会・耐寒ハイキングの実施、地域の人たちとの交流、公民館との連携、地区運動会への参加、国際理解教育
<u>学び力</u>
朝の学習（基礎・基本の定着）
自分で課題を設定し、自主的に学習する力をつける。
ビブリオバトルなど読書活動の推進。
<u>元気力</u>
学習・生活アップ週間の実施、食育の推進

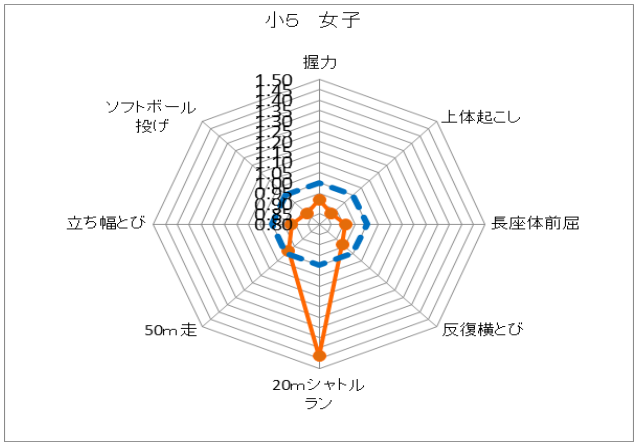
（2）全国体力・運動能力、生活習慣調査

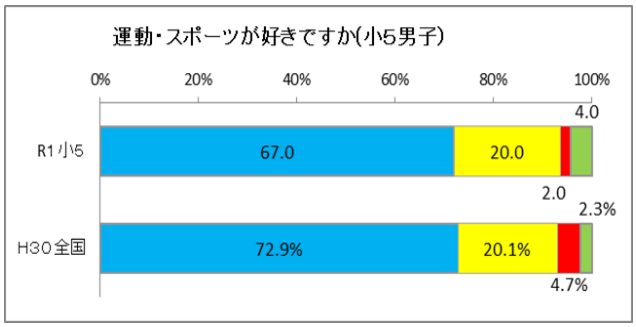
○●体力●○

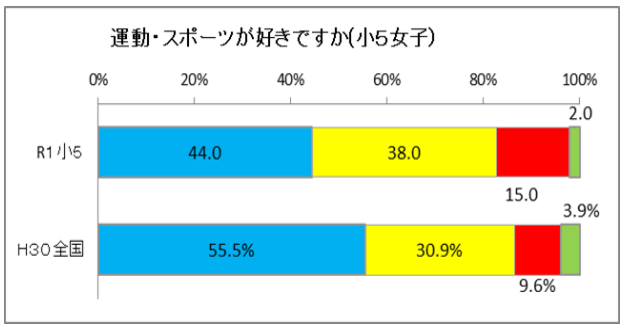
男子（小５）



女子（小５）







好き　やや好き　ややきらい　きらい

分析

・例年のように２０ｍシャトルランは男女とも全国平均を大きく上回っている。
・昨年に比べ、男子の反復横跳びが全国平均を上回った。また、男女とも５０ｍ走は全国平均並みの結果になっている。
・男女ともに、立ち幅跳び、ソフトボール投げ、上体起こし、長座体前屈は全国平均を下回っている。ただ、男子のソフトボール投げに関しては前年度を上回る結果を残している。
・男子の「運動・スポーツが好き」と肯定的に回答した児童の割合が昨年度より減少し、全国平均を下回っている。
・女子で「運動・スポーツが好き」と肯定的に回答した児童の割合は昨年度並みであるが、全国平均を下回っている。
・敏捷性のある動きが苦手な児童が多い。
・リズムを使って体を動かすのが苦手な児童が多い。

取組み

・マラソン月間の取り組みは効果を上げている。児童の持久力を向上させるため、今年度も取り組んでいく。
・体育の授業に立命館大学プログラムを取り入れて、さらなる持久力向上を目指す。
・体育の授業にサーキットトレーニングを取り入れ、敏捷性の向上を目指す。
・投げる力が弱いので、的あて遊びなどを低学年から取り入れ、フォームを意識しながら投げる力をつけていきたい。また、学校全体で休み時間のドッジボールを推奨していく。